

江戸のポップ

# 「浮世絵名品展」

〈春信・清長・歌麿・写楽・北斎・広重〉など

1989年10月7日土～10月29日日

開館時間／9:00AM～5:00PM (初日は10:00AM開展・全曜日は7:00PMまで)

休館日は月曜日

講演会■

10月15日(日)1:30PM・美術館講堂

講師：岩崎均史(たばこと塩の博物館学芸員・成城大学講師)

■演題「浮世絵の世界」

■浮世絵版画 摺りの実演

10月7日、8日、10日、11日

実演時間■11:00AM・1:00PM・3:00PMの3回

アダチ版画研究所

## 高松市美術館

入場料／一般600円 高・大生300円 小・中生100円

一般前売り480円 団体20名様以上は2割引

主催／高松市美術館・瀬戸内海放送 後援／四国新聞社 協力／たばこと塩の博物館 協賛／日本たばこ産業株式会社





鈴木春信 おせん茶屋

## ●浮世絵名品展

浮世絵は、江戸時代の庶民階級を基盤として発展し、独自の美的形式を生み出した日本を代表する芸術です。

「浮世絵の開山」と称せられる菱川師宣が、江戸に出てきたのは今から300年ほど前の寛文年間(1661-73)だったと言われています。師宣は自分の描いた木版摺絵の作品に絵師としての自負から、名を記すことを始めました。この師宣から始まる浮世絵は、版画技術の進歩とともに、その質を高めてゆきました。そして、明和2年(1765)頃、ついに鈴木春信による多色刷の〈錦絵〉誕生となるのです。

このあと、浮世絵の世界には多くの才能が集まり、江戸の美意識を具現していきます。鳥居清長、鳥文斎栄之、喜多川歌麿といった美人画の名手。勝川春章、歌川豊国ら役者絵の名手。そして、わずか10ヶ月というあまりに短い作画期間しか持たなかった謎の絵師、東洲斎写楽らが次々に輩出し、ここに浮世絵の黄金時代を迎えることになるのです。

その後、幕末の頹廢的な世情を反映した作品が目立つようになりますが、その中において、葛飾北斎と安藤広重はやはり傑出した絵師と言えるでしょう。幾度も画号と画風を変え、自ら画狂人と名乗った北斎。また、浮世絵史上、空前の大ヒットとなった東海道五拾三次シリーズの広重。

今回の展覧会は、たばこと塩の博物館(東京・渋谷)所蔵品のうち、師宣に始まり文明開化期にいたる名品約160点をとおして、浮世絵版画の歴史をたどります。江戸の空気に触れ、江戸の美の世界をお楽しみください。



葛飾北斎 富嶽三十六景 東海道吉田



安藤広重 東海道五拾三次の内 御油

東洲斎写楽  
「敵討乗合嘯」四世松本幸四郎の  
肴屋五郎兵衛

### ▲常設展のおしらせ▼

〈10月4日(水)～12月26日(火)〉  
—アメリカに渡った作家たち—  
—香川の漆芸と金工—

**高松市美術館**

高松市紺屋町10-4 TEL0878(23)1711